



くば小児科 クリニック

院内報 2008年12月+2009年1月号

● 院内版感染症情報 ～2009年第01週（12/29～1/4）

| 2008-2009年 | 第37 | 38 | 39 | 40 | 41 | 42 | 43 | 44 | 45 | 46 | 47 | 48 | 49 | 50 | 51 | 52 | 01週 |
|------------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| インフルエンザ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 | 0 |
| 咽頭結膜熱 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| A群溶連菌咽頭炎 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 感染性胃腸炎 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 2 | 4 | 5 | 4 | 10 | 10 | 6 | 9 |
| 水痘 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 3 | 0 | 2 | 0 |
| 手足口病 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 |
| 伝染性紅斑 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 突発性発疹 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 百日咳 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 風疹 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ヘルパンギーナ | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 麻疹 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 流行性耳下腺炎 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

年明けの時点で、流行の中心は嘔吐と下痢のウイルス性胃腸炎（ノロまたはロタウイルス）で、一般的な咳が出るタイプの風邪がそれに次いでいます。

水ぼうそうが例年と同様に冬場にかけて増えてきています。溶連菌感染症は今年は目立ちません。その他には、保育園などで手足口病やそれに類する発疹の出るウイルス感染が散見されています。インフルエンザはこれからです。

● インフルエンザ流行情報

今年も昨シーズン同様に12月中旬に全国で流行が始まりましたが、八戸市内では地域によって増え始めたかというところで冬休みに入り、目立った流行には至っていません。3学期が始まって急に増加する可能性があるので、流行情報には注意して、人混みなどはなるべく避けるようにしましょう。なお、ワクチンは在庫がある間は接種継続していますので希望の方はお申し込み下さい。

● ヒブ（Hib）ワクチンの接種が始まっています

種類：インフルエンザ菌b型ワクチン（不活性化ワクチン・任意接種）

接種方法：1回0.5mlを皮下注射

回数：2ヶ月～6ヶ月…4回（4～8週間隔※で3回、1年後に1回）

7ヶ月～11ヶ月…3回（4～8週間隔※で2回、1年後に1回）

1歳～4歳 …1回

5歳以上 …接種の適応はありません

※三種混合との同時接種などで必要と認められた場合は3週間隔も可

料金：7000円（三種混合と同時接種の場合は6000円）

副反応：主なものは注射部位の発赤、腫脹、硬結などの局所反応ですが、ごくまれにショックなどの副反応の可能性があるのは他のワクチンと同様です。

（正確な頻度は不明ですが世界各国で特別の問題はなく接種されています）

同時接種とは：ヒブワクチンは回数が多いため、同じ時期に接種する三種混合（DPT）との同時接種をお勧めします。ワクチンは混ぜて注射することができないので、DPTとヒブをそれぞれ反対の腕に接種することになります。2回の注射が必要ですが、別の日にするよりも一度に済ませてしまった方が本人も家族も負担が減ります。ヒブは2ヶ月から接種できますので、先にヒブ単独で1回接種して、残り2回をDPTと同時接種にすることも可能です。

ヒブワクチンの必要性：毎年国内で約600人がインフルエンザ菌b型（Hib；ヒブ）による髄膜炎にかかり、5%が死亡、25%に重い後遺症を残しています。ヒブワクチンは10年も前から世界100カ国以上で定期接種として実施され、ヒブの髄膜炎は激減していますが、日本の子どもたちは取り残されていました。今回やっと日本でも接種が可能となりましたが、全額自費の任意接種で、自治体による補助もありません。全国の一部の自治体で補助を開始していますが、青森県内ではゼロです。（市民の強い要望を集結させないと実現は難しい情勢）

予約：現在、ワクチンの生産・在庫が限られているため、医療機関ごとに予約をしてから入荷するまで半月程度（人数が増えればそれ以上）の期間が必要になります。DPTと同時接種の場合にスケジュールが合わせにくくなる可能性もありますので、ご希望の方は早めにお申し込み下さい。

（一部、前号までにお知らせした内容と異なっているところがあります）

● タバコ税増税で国民の命を救え（東奥日報明鏡欄投稿）

◇タバコが原因の病気で死亡する人は毎年二十万人近くに上ることが、厚生労働省研究班の調査でわかった。これまで約十一万人と推定されていたので、一気に二倍近くに跳ね上がったことになる。しかもこの中には毎年約二万人と推定される受動喫煙による死亡者は含まれていないのだから、その甚大な健康被害にはあらためて驚かされる。

◇日本を含む世界のほとんどの国が加盟しているタバコ規制枠組み条約には、（タバコの惨禍から）国民の命を守るための最も有効な手段としてタバコ税増税があげられている。

◇国内でも欧米諸国並みの「一箱千円」を求める声が高まっていたが、業界や一部議員の反対により増税は見送られてしまった。

◇増税により喫煙率が下がり税収が減るかもしれないからという反対派の主張は、税金のため喫煙者にはこのまま吸い続けてもらい犠牲になっても構わないと言っているのに等しく、患者や家族への想いは感じられない。

◇葉タバコ農家にはタバコ税による転作補助が真の支援のはずだ。

◇お金と命のどちらを選ぶのか。この問題が私たち有権者に突きつけた意味は決して小さくない。

（追記）『一部議員』の中で大きな力を発揮したのは地元選出与党議員です。

● 1月～2月の診療日、急病診療所、各種教室、相談の予定

年末は12月30日(火) 午前まで、年明けは5日(月) からの診療となります。2月は臨時休診の予定はありません。

急病診療所当番は1月3日(土) 夜、11日(日) 昼の2回で2月の当番は未定です。赤ちゃん教室は1月17日(土)、育児・子どもの心相談、禁煙外来（保険診療）は随時受け付けております。メール予約システムをご利用下さい。

発行 2009年1月6日 通巻第137号

編集・発行責任者 久芳 康朗

〒031-0823 八戸市湊高台1丁目12-26

TEL 0178-32-1198 FAX 0178-32-1197

<http://www.kuba.gr.jp/>

☆ 当院は「敷地内禁煙」です ☆